

研究課題名	低体温症患者の医学情報等に関する疫学調査
研究期間	2013年12月15日～2014年3月15日
研究の目的と意義	<p>山における遭難等で低体温症による死亡と考えられる事故が報道されることがあります。しかしながら、本邦における低体温症の実態については、ほとんど解明されていないのが現状です。日本救急医学会 熱中症に関する委員会は2011年に低体温症の実態に関する全国調査を行い、その結果報告から低体温症の病態解析およびその管理、地域ならびに行政の介入による医療へつなぐことのできるシステムの構築について検討することの必要を指摘しています。</p> <p>本研究は、厚生労働省の指定研究である「効果的な熱中症予防のための医学情報等の収集・評価体制構築に関する研究」の一環として行われる低体温症の実態調査であり、原因や病態の解明および治療や予後の実情を把握し、発生の予防に向けた地域医療へのアプローチを検討することを目的に行うものであります。</p>
研究方法	<p>1) 対象 2013年12月15日から2014年3月15日までに当院救命救急センターにおいて、低体温症を診断された全ての患者さんを対象とします。なお、外来診療のみで帰宅となった患者さんは除外します。</p> <p>2) 実施施設 当院救命救急センターにて患者診療録より診療情報の調査を行います。</p> <p>3) 対象とする試料（資料）と入手方法 患者さんの診療録から年齢、性別、来院方法、発生日、発生状況、既往歴、生活歴、来院時および第3病日（第3病日までに死亡した場合は第2病日）の所見（身体所見・検査所見・重症度スコア）、発生原因、治療法および転帰に関する情報を入手し、これらを用います。</p> <p>4) 解析方法 入手した診療情報をもとに、インターネット上に開設された「低体温症例に関する全国調査」のウェブサイトから登録画面にある調査項目（別紙）に回答を入力します。同様に日本救急医学会指導医指定施設、救命救急センター、大学病院ならびに市中の救急部の中で研究への協力が得られた救急医療施設からも登録が行われ、調査期間終了後に研究の主管となる日本救急医学会 熱中症に関する委員会において、集計および解析の後に発生予防を含めた対策について検討が行われます。</p>
個人情報の保護、研究参加の拒否について	<p>利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p> <p>また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。</p>
結果の公表	<p>調査したデータは、日本救急医学会の委員会へインターネットを介して登録され、他の施設から同様に送られてきたデータとともに集計された後、低体温症の治療や対策の検討のために解析が行われます。データについては、研究期間中（2013年12月から2014年8月）は研究責任者のもとで厳重に管理され、研究終了後に紙媒体の資料はシュレッダーで破棄され、電子データは匿名化した状態で完全に消去されます。また、</p>

	今回の研究で得られた結果に関しては医学的な専門学会や専門雑誌などで報告されることがあります。
問合せ先	【研究責任者】 京都第二赤十字病院 救命救急センター（救急部） 医 長 檜垣 聡 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL : 075-231-5171（代） FAX : 075-256-3451（代）